

免許状教科	中学校 1 種（社会）・高等学校 1 種（地理歴史・公民・商業）			
科目名	心身の発達と学習	科目分類	教職科目	
			経済学科	■必修 □選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Mental/physical development and learning	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	みつだ もとお	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	光田 基郎	修得単位	2単位	
		実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	人が人格―行動―学習の連鎖の中で成人する過程を支援する教職の基本である学習指導と学ぶ集団の組織化に必要な知識・技能の初歩を実技を併用して学ぶ。			
到達目標	心理実験や調査などの実技と映像を併用して、教員の本務である学習指導と学ぶ集団の維持機能の初歩的な知識・技能を学ぶ。学生諸君が大学で知識として学んだ事を自分らしく活用して、周囲の人に役立てる方法を考えながら教育実習に行く事を期待します。生徒の知的、情緒的発達に応じた指導が可能な教員や公務員になる様に自分自身の成長のモデルを想像して実現の計画と準備を重ねて下さい。ネットの「暇刊女教師、がんばれワーキングママ」(http://maries.air-nifty.com/) に 20 余年前の千葉の中学新任女教師時代から現在 3 児の母で勤務中までの教員と主婦との役割両立と人間模様などのブログや。ネットのない 70 年代の農業高校を描いた朝日文庫「はいすくーる落書（多賀たか子著）」にも女性教員と粗野な生徒達、その保護者及び教員集団との交流が描かれている。当学卒業生が今後も教員に採用された時に、授業内容を構想して、学ぶ意欲に欠ける生徒をも巻き込んで学級での思考を展開するための苦労から逃げず、思春期ゆえの反抗に直面するストレスにも耐えて上記の様な良い教員に成長出来る事を期待して実技と映像を多用します。			
授業概要	思春期までの知性と人格の発達（人格―行動―学習の連鎖）である乳児期、幼児期、学童期と思春期のそれぞれの発達段階で直面する課題を理解する。DVD と心理査定の実技も併用して母子関係、非行、不登校と拒食、障害児教育などの課題への対処の基本を理解する。次に学習では保育と学校教育の課題を概説する。生き方の基本が take and give の人は未熟で人を褒めるよりも褒められて舞い上がるゆえ、give and take が基本との教員像を目指してカウンセリングや心理査定など教育現場に必要な実技の基本を学ぶ。教員の必要条件はバランス感覚（個性と平等、職務と自分の感情、理想と現実などの平衡）と理解し、秩序を守れない子が妙に素直なら何故？と疑問に思う自分の気持ちにも配慮せねば真実を見失い、周囲の信頼を損なう危惧も指摘する。			
授業計画				
第1回	DVD を併用して新生児の発達課題は外界への基本的信頼感であり、新生児が空腹や不快感、不安感を動作や声でアピールすれば母親か保育士が対処してくれる経験から自他への信頼感を得て、積極的に外界に働きかける。この失敗が無力感と自他への不信感の学習であり、人から素直に学べず、将棋で自分だけ待った反復で嫌われ、職場より自分を守って金だけが頼りなど不幸な経験の蓄積とその対応策を知る。			
第2回	DVD を併用で、幼児期の課題は自己主張と自己抑制のバランスと知る。好き嫌いと言語での衝動制御及び、自己主張と自己抑制のバランス修得の機会として 4 歳児のけんかは必修であり、言葉で自分を振り返って改めるかそうでないかが明暗を分けると理解する。ドラえもののジャイアンは我儘―劣等感―自己顕示欲―暴力等、登場人物全てが発達課題の失敗像と指摘する。			
第3回	学童期は劣等感と自尊心のバランスが課題、思春期は自分とその内外の変化に耐えて自己像の構築が課題と述べ、ドラえものの出来杉もしずちゃんも良い子のイメージも自分で否定する「思春期の危機」での拒食や自己破壊衝動、悪人やカルトに頼った家族拒否について概説し、非行、不登校の原因が乳児期からの発達課題の達成不十分と指摘する。自己像の質問紙実技を予定。			
第4回	学童期の課題が未完成の行動ルールは自分の好悪でいじめ（本能水準）と損得（自我水準―皆の雰囲気と同調でいじめ）で「同級の甲斐純子を怪物の子とキックは恥、止めろ（超自我の水準）」に遠い。学童にルールや生活の知恵を教えた大人や友人集団不在。教員も父親も無力化。争いや共感を経験して自分の生き方を学ぶ筈の学童期は母に依存で思春期入り。実技はエゴグラム			
第5回	温室育ちで子どもらしい有能感を傷付けられた経験を重ねず、現実の自分を立て直す方法（秀才の自己像と目標を修正、方法改善、点取り虫よりも楽しく学ぶ工夫）を知らず、自己制御不能でできる、他人に責任押し付けや弱者攻撃、引きこもり⇔挫折や諦めの経験を重ねてストレス対処を学ばねば、次の思春期の課題に対処不能と指摘する。ネットで社会的知能（EQ）検査実施。			

第6回	思春期までの子は愛情依存、さぼりや非行をすれば親兄弟、教員などよくしてくれた人の愛情を失う恐れから優等生を目指す、思春期以後は周囲の人の愛情や承認を求めて頑張るのでなく自分で納得して決めた事に努力(自己依存)する。この過程で愛情不足と誤解したら自己破壊、悪人やカルト依存での家族拒否では自立心での家出でない。実技はうつ病尺度を予定。
第7回	信頼をベースとして、話を聞く姿勢、認め合う姿勢を子どもの中に作り出す必要。担任が周囲の理解を得て乱暴な子も大切にすれば誰も彼を本気で排除しなくなる。ここで個性と平等のバランス感覚が必要。下手な先生は自分だけで対処して「Tをのけ者にしたら罰する」などと言うから、Tは先生が守らねば動けない無力な子のイメージを持たせる。実技はストレス耐性検査予定。
第8回	子どもの描いた家族画のDVD併用で、学童と思春期の課題としての家族像の概説。家族は相互作用システムであり、その人間関係は社会一般の人間関係と共通であるのが普通。学者一家で、勉強の不出来な子を悪者にして安定する関係も。3人の子で秀才以外の不出来な子が建築士を志して反対され家を出た後、秀才の姉さんが不純異性交遊。この家の規範は世間一般と異なる→
第9回	学習とは経験による行動傾向の獲得(疲労や中毒での一時的変化でなく性格や態度と同様に不変でも遺伝ではない事とその理論、実験についてDVDと電算実験を併用して学び、電算に学習させたプログラムにより俳句や忠臣蔵の筋立ての英訳をスマホやパソコン画面上で試み、英訳は「浅野より吉良が悪い」と最初にプログラムされた日本の常識通りにしか訳せない限界を述べる。
第10回	「アミーバが3分毎に分裂して倍に殖える。今、1個体を容器に入れたら1時間でこの容器は一杯になったとする。最初から2個体入れたら何分でこのビンが一杯になるか？」57分との答えに至る思考過程で、現状の認知、何と取り組むべきか(2個体=3分経過の理解)の判断と演算過程の巧緻化、知識を働かせる過程の訓練など、実験を併用して知識利用の意味を理解する。
第11回	電算画面での実験や10人1組の伝言ゲームでの記憶の変容を通じて、記憶はコピーや録画でなく、知識の枠組みを活用して過去の情報を構造化して再現する機能である事を理解し、情報を構造化、図式化して記銘する必要性を強調する。
第12回	コーチングについて:初歩の教え込みの段階から個人の資質を発見して引き出す姿勢に至り、どの生徒にも活動の舞台を保障する努力の必要性—個性と平等のバランスの意味を考える。
第13回	自主協同学習(生徒が課題の発見と解決に向けて主体的・協同的学び、どう学ぶかという学習の質と深まりを重視した学習法)とその障害となるスクールカーストについて説明する。実技はと5人1組で集団課題解決過程でのコミュニケーション構造の実験を予定。
第14回	集団内の対人関係について「敵の敵は味方」という形で3者関係が掛け算してマイナスなら不安定。バランスに向って行動が動機付けられるゆえ、複数の敵を作れば集中攻撃の目標と概説。 集団内の不安と不信の学級では誰かの弱点を全員で滅多打ちして面白がっていないと落ち着けない。これがいじめの基本、人間関係を変える必要性を指摘。談合と競争関係の実験も予定。
第15回	学習動機について、達成動機(絵を見て作文させた時に、あいまいな絵に投影されたやる気)の測定。さらに電子レンジの発明は第2次大戦中にレーダー研究者がポケットに入れたチョコが熱で柔らかくなったのを見て、電波で加熱を思い付いた様にセレンディピティ(偶然の出来事から幸せをつかむ)は、僅かの予期しない契機で起きることが多いが、この感受性を概説する。
第16回	定期試験
授業時間外の学習	人と一緒に考える工夫を学んで下さい。積極的に課題と取り組み、考えて答えを探す工夫を怠らない者は必ず良い結果が出せます。震災直後から9年間当学と聖霊短大に勤務した時、夜22時の秋田大図書館閉館時でも休日の県立図書館でもノースアジア大や聖霊短大での受講生によく会いました。その数名は現在、県内の栄養教諭、岩手等の中高教員や秋田大院生です。
履修条件 受講のルール	特にありません。教員採用試験問題集や各県去育委員会のHPを見て、現在の自分と採用試験の出題内容、教育現場の現状との差を埋める工夫を重ねれば道は開けます。面接で県内の風車の数を聞かれた先輩、警視庁の採用試験でも「真実」について600字の小論文を書かされ、面接でその内容を徹底的に質問された人もいます。日頃から、文章表現能力を鍛える努力と、自分なら生徒やその周囲の人とどう関わるかを学ぶためにも、アルバイト先、ボランティアなどで生徒やその保護者の世代と関わりから何かを学び取る努力を重ねて下さい。
テキスト	使用しない。毎週パワーポイント12コマの資料をポータルに常時置きますから、復習や採用試験対策に使って下さい。ネット上の採用試験問題(skyosai.com)、心理統計自習(http://kogo-lab.chillout.jp/elearn/hamburger)などスマホやネット上の無料自習教材も適宜紹介。多忙でも、時間とネットの情報を上手に使えると効率的に勉強出来ます。
参考文献・資料	適宜、指示します。各県教委、特に首都圏教育委員会のHPに採用試験問題及び面接での試問内容(学習指導要領などが記載されています。現場での指導案のモデルも岩手県教委など、各県教委のHPにあります。自分自身が出身中学や高校の実習生になった気でよく読んで実習に臨めば生徒にも信頼されます。

成績評価の方法	※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。教育実習中に民間への就活セミナーやアルバイトなどを理由に欠席すれば、教職志望の意欲を疑問視されて厳しく減点されますから、実習と授業での出席数及び、ポータルに記載された大学からの連絡は必ず確認して下さい。
オフィスアワー	火曜日の1限と3限の講義以外、最終のスクールバスの時間までは研究室に在室予定。
成績評価の基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	大学を上手に利用して社会に出る準備を重ねて下さい。目標を決めて、具体的に計画・準備した人は社会で認められます(語学力を磨いて米国の大学に1年留学、今は英国駐在の営業幹部、新聞社などのスカラシップで外国の大学院留学やインターンの院生は教員や新聞社特派員)。教員も夢でない。目標・計画と準備を着実に設定して努力すれば世間が認めてくれます。 目標だけでは無意味な願い事。具体的計画と準備を重ねれば人並み以上の結果を出せます。教員はマラソンの白バイ同様、若い人に寄り添い支援する魅力的な仕事、トライする価値あり。